

令和4年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 真庭市結果について

I はじめに

－語り合いで「共」に「育」ち合う仕組みを創る－

真庭市の小中学校では、「確かな学力と豊かな心を備え、夢をもって自ら学ぶ子どもの育成」を目指して、郷育を核としたキャリア教育、個性や能力が輝くインクルーシブ教育を軸とした、教育活動を推進しています。

毎年実施される全国及び岡山県学力・学習状況調査については、その結果を基に、検証・改善・実践のサイクルを確立し、各校における取組の進捗状況を検証する1つの指標として活用しています。

真庭市が目指す子どもの姿の実現を目指して、学校、家庭、地域が一体となって、子どもを確かに育む取組を推進するために、本調査結果を公表します。

II 調査の概要

全国学力・学習状況調査

1 調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持・向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- ・市内小学校第6学年児童（20校 357名）
- ・市内中学校第3学年生徒（6校 361名）

3 調査の内容

ア 教科に関する調査

(ア) 小学校：国語・算数・理科 中学校：国語・数学・理科

(イ) 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下の通り

- 1.身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- 2.知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

イ 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

(「児童生徒に対する調査」 「学校に対する調査」)

4 調査実施日

- ・令和4年4月19日（火）

II 進捗状況	<p align="center">－ 真庭市が目指す学校教育の姿と現状を結ぶ－ 【全国（小6/中3）県（小5/中2）調査より】</p>
郷育を核としたキャリア教育を通して「 未来を切り拓く子 」を育む	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の住んでいる地域が好きである」という児童生徒の割合は、県平均を小中学校ともに上回っており、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがあるか」という問いでも小中学校ともに全国値を上回っている。 ◆総合的な学習の時間を中心としたふるさと学習を通して、将来の目標を持って難しいことにも取り組む姿勢を育成したり、児童生徒の地域に対する誇りや愛着を醸成するとともに、「地域や社会」に対する貢献意欲を高めたりすることができている。 ◆与えられた課題だけでなく、自ら課題を設定しその解決に向けて取り組むといった探究的な学習を繰り返しながら、学習の質を高める取組を推進していく。
個性や能力が輝くインクルーシブ教育により「 共生社会の担い手 」を育む	<ul style="list-style-type: none"> ・「人が困っているときは、進んで助ける」という児童の割合が、全国値を上回っている。 ・「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「友達と協力するのは楽しい」という生徒の割合が、全国値を上回っている。 ◆共生社会の実現に向けて、互いの人格と個性を尊重し支え合い、違いを認め合いながら成長していくための豊かな心が育まれている。
確かな学力を育む 学習基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」（主体的な学び）については、小中学校とも全国値を上回っている。 ・「学級の友達との話し合いを通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」（対話的で深い学び）でも小中学校とも全国値を上回っている。 ・ICT機器の使用頻度は、小中学校ともに全国値を上回っている。 ・学習時間の増減については学年によって傾向が異なるが、中学校1年時をピークに少なくなる傾向にある。ゲーム等の機器を使用する時間は学年が上がるにつれ増加している。 ◆新学習指導要領に沿った授業改善は進んでいるが、学習の確実な定着に課題が見られる。 ◆特に中学校で授業以外での学習時間を十分に確保することができていない。学年が上がるにつれて、ゲーム等の機器を使用する時間が増え、学習時間が少なくなるなど、学習習慣が定着していない生徒の割合が高い。
確かな学力	<p>【全国調査（小6/中3）より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校とも全ての教科で、全国値を下回る結果となった。 ・特に中学校数学で全国値との差が広がった。 <p>【県調査（小3・4・5/中1・2）より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校5年生算数、中学校1年生国語、数学で全国値を上回った。 ・小中学校ともに、全国値を下回る科目が多くなっている。 ◆全国・県調査から、算数・数学及び英語について、学習内容の確実な定着が課題である。

Ⅲ 平均正答率の状況

全国調査（小6／中3）

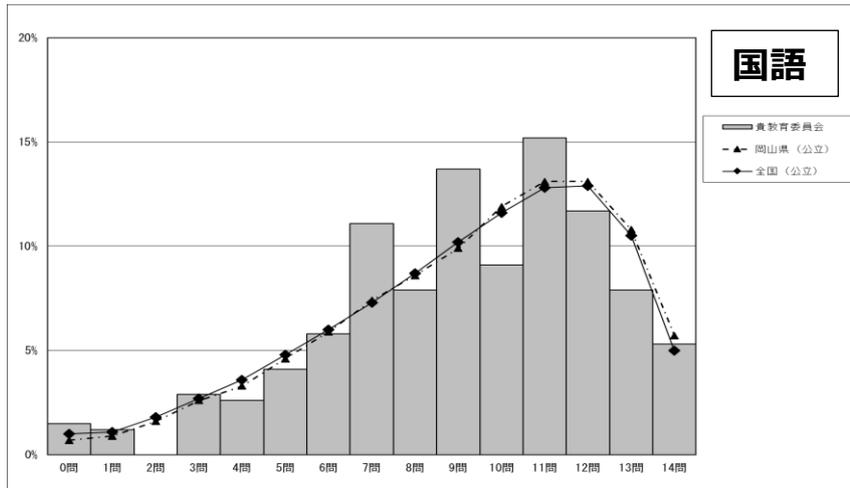
小学校平均正答率の状況

【参考：令和3年度の結果】

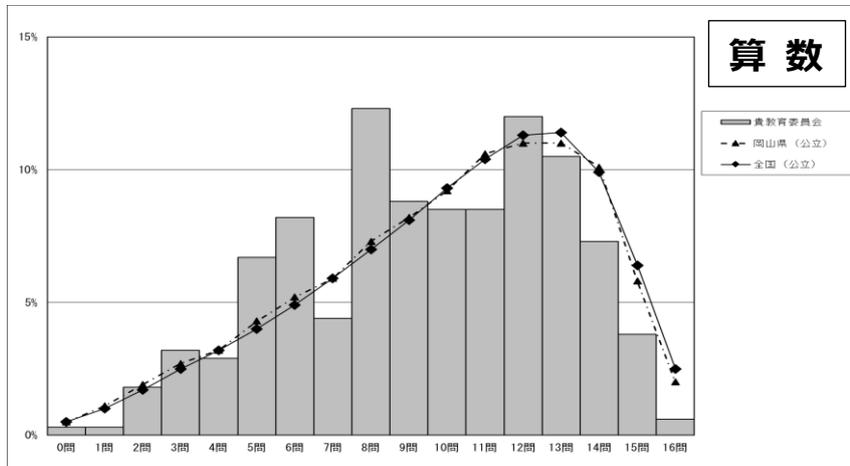
項目		国語	算数	理科
令和4年度 平均正答率	真庭市	65	59	62
	岡山県	67	62	64
	全国	65.6	63.2	63.3
	全国との差	-0.6	-4.2	-1.3

項目		国語	算数
令和3年度 平均正答率	真庭市	65	68
	岡山県	66	69
	全国	64.7	70.2
	全国との差	0.3	-2.2

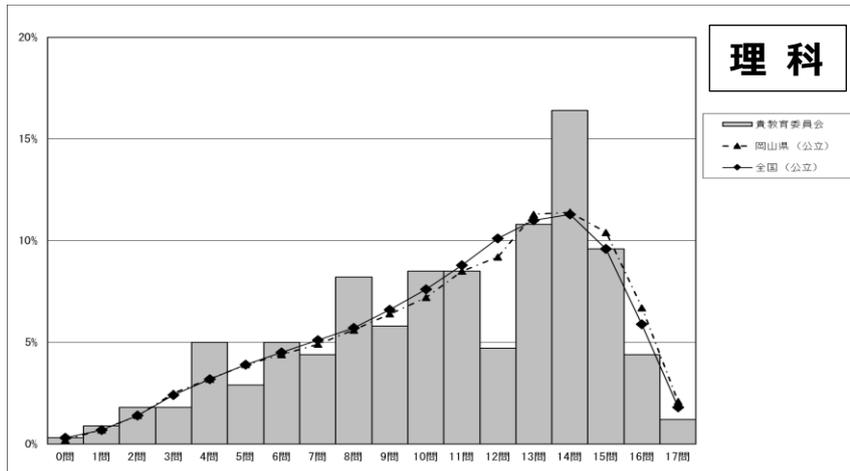
正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



- 正答数分布グラフは全国や県と同じ傾向であった。
- 特に言葉のきまりや漢字などの知識・技能は全国や県より高かった。
- 叙述や描写を基に物語の全体像を捉える読む力や言葉や相手とのつながりを捉える共有の力に課題が見られる。



- 示された場面を解釈し、求める理由を記述することについては、全国や県の正答率を上回っている。
- 割合を日常生活場面に結び付けて考えることや目的に応じて多面的に考察する力に課題が見られる。
- 学習の定着に課題が見られる。



- 全国や県とほぼ同じ傾向である。
- エネルギーに関する領域や実験の結果等について記述する問題が全国や県の正答率を上回っている。
- 事実的な知識の習得やそれを概念的に理解することに課題が見られる。

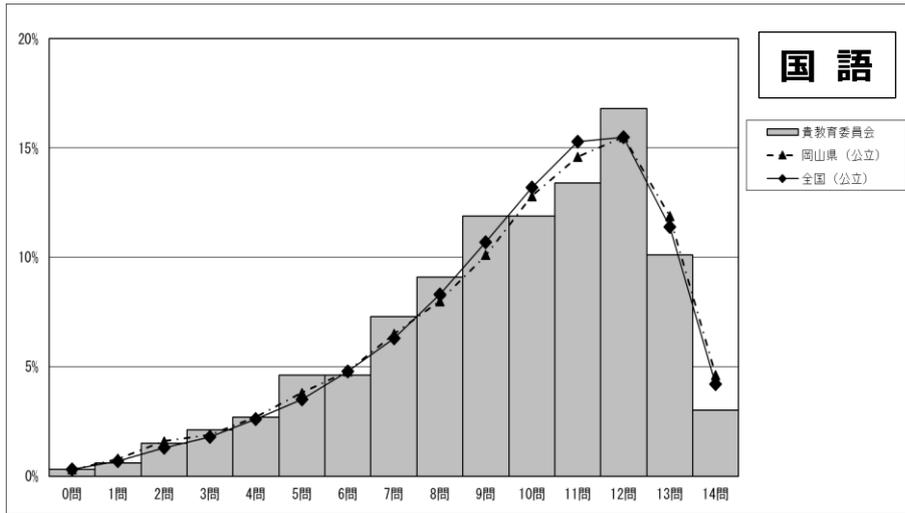
中学校平均正答率の状況

項目		国語	数学	理科
令和4年度	真庭市	67	43	45
	岡山県	69	51	49
平均正答率	全国	69	51.4	49.3
	全国との差	-2.0	-8.4	-4.3

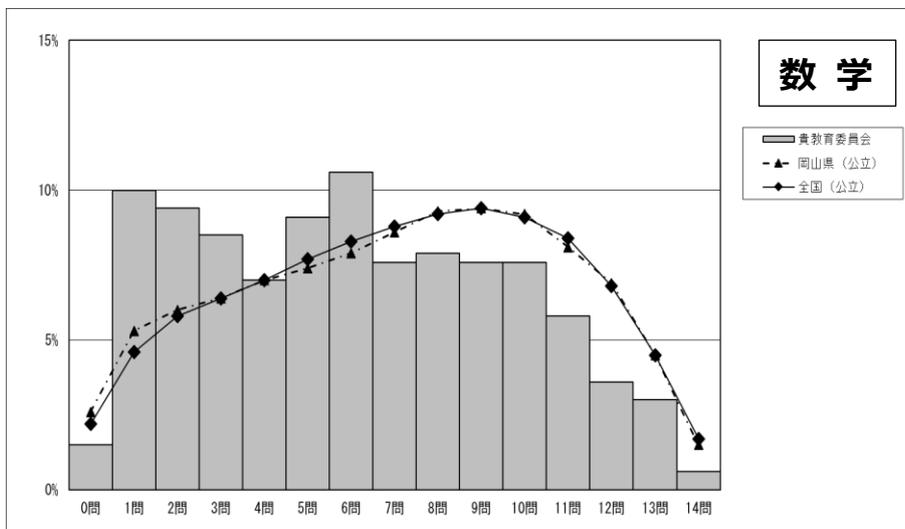
【参考：令和3年度の結果】

項目		国語	数学
令和3年度	真庭市	62	52
	岡山県	65	57
平均正答率	全国	64.6	57.2
	全国との差	-2.6	-5.2

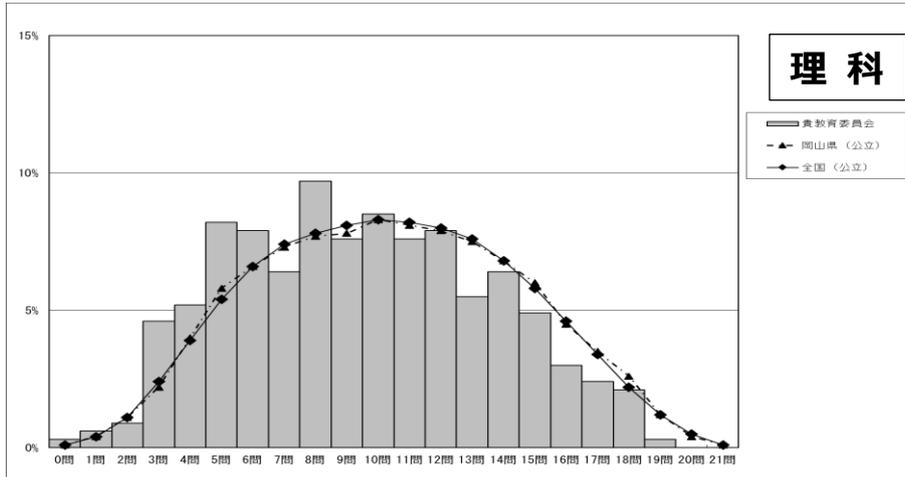
正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



- 正答数分布グラフは全国や県と同じ傾向であった。
- ある情報について根拠を明確にして書くことは全国の正答率を上回っている。
- 描写を基に物語の全体像を捉える読む力や言葉や相手とのつながりを捉える共有の力に課題が見られる。



- 正答数分布グラフから学習の定着に課題が見られる。
- 図形や関数の領域に特に課題が見られる。
- 論理的に予想し記述したり、問題解決の方法を数学的な表現で説明したりするような記述の問題で無回答率が高い傾向がある。



- 正答数分布グラフは全国や県と同じ傾向であった。
- 知識の定着に課題が見られる。
- 知識を概念的に理解したり、予想や仮説を基に検証したりする力に課題が見られる。

IV 調査の概要

岡山県学力・学習状況調査

1 調査の目的

個々の児童生徒の学力・学習の状況を全国比較及び経年比較することにより、教科指導や教育施策の改善を図る。

2 調査の対象と内容

	小学校（20校）			中学校（6校）	
	第3学年	第4学年	第5学年	第1学年	第2学年
市内受験者数	300人	341人	297人	322人	349人
県内受験者数	8,993人	9,182人	9,197人	9,465人	9,193人
全国受験者数	約8万人	約11万人	約12万人	約9万人	約10万人
実施教科等	国語、算数	国語、算数	国語、算数 質問紙	国語、数学 質問紙	国語、数学 英語、質問紙

3 調査実施日

・令和4年4月19日（火）

V 平均正答率の状況

県調査（小3・4・5／中1・2）

小学校3年生			中学校1年生			
	国語	算数		国語	数学	
市	65.2	72.2	市	57.5	73.4	
県	68.7	75.2	県	58.9	72.0	
全国	67.1	73.9	全国	57.3	69.2	
小学校4年生			中学校2年生			
	国語	算数		国語	数学	英語
市	65.9	70.2	市	64.8	51.5	49.7
県	69.3	74.4	県	67.9	60.0	55.8
全国	68.0	73.1	全国	66.7	56.6	55.9
小学校5年生						
	国語	算数				
市	66.9	61.2				
県	68.3	63.2				
全国	68.0	60.4				

平均正答率の比較【基礎・活用】

小学校の結果

第3学年	国語			算数			国語	正答率	-1.9
	正答率	基礎	活用	正答率	基礎	活用		基礎	-2.5
真庭市	65.2	75.4	44.9	72.2	75.7	61.8	活用	-0.7	
岡山県	68.7	79.2	47.7	75.2	78.6	65	正答率	-1.7	
全国	67.1	77.9	45.6	73.9	77.6	63	基礎	-1.9	
全国との差	-1.9	-2.5	-0.7	-1.7	-1.9	-1.2	活用	-1.2	

第4学年	国語			算数			国語	正答率	-2.1
	正答率	基礎	活用	正答率	基礎	活用		基礎	-1.8
真庭市	65.9	71.7	53	70.2	74.3	55.8	活用	-2.6	
岡山県	69.3	74.7	57.3	74.4	78.4	60	算数	正答率	-2.9
全国	68	73.5	55.6	73.1	76.8	60		基礎	-2.5
全国との差	-2.1	-1.8	-2.6	-2.9	-2.5	-4.2		活用	-4.2
第5学年	国語			算数			国語	正答率	-1.1
	正答率	基礎	活用	正答率	基礎	活用		基礎	-0.2
真庭市	66.9	73.8	51.3	61.2	67.7	48.7	活用	-3.2	
岡山県	68.3	73.9	55.8	63.2	69	52	算数	正答率	0.8
全国	68	74	54.5	60.4	66.3	49.3		基礎	1.4
全国との差	-1.1	-0.2	-3.2	0.8	1.4	-0.6		活用	-0.6

中学校の結果

第1学年	国語			数学			国語	正答率	0.2
	正答率	基礎	活用	正答率	基礎	活用		基礎	0.5
真庭市	57.5	62.7	47.8	73.4	75.1	66.8	活用	-0.3	
岡山県	58.9	63.8	49.5	72	73.4	66.8	数学	正答率	4.2
全国	57.3	62.2	48.1	69.2	70.6	63.5		基礎	4.5
全国との差	0.2	0.5	-0.3	4.2	4.5	3.3		活用	3.3
第2学年	国語			数学			英語		
	正答率	基礎	活用	正答率	基礎	活用	正答率	基礎	活用
真庭市	64.8	70.1	54.8	51.5	53.4	46.5	49.7	51.5	45.7
岡山県	67.9	73.1	58.1	60	62.4	53.7	55.8	57.8	51.3
全国	66.7	71.4	57.8	56.6	58.2	52.3	55.9	57.7	51.7
全国との差	-1.9	-1.3	-3	-5.1	-4.8	-5.8	-6.2	-6.2	-6
国語	正答率		-1.9						
	基礎		-1.3						
	活用		-3						
数学	正答率		-5.1						
	基礎		-4.8						
	活用		-5.8						
英語	正答率		-6.2						
	基礎		-6.2						
	活用		-6						

□ 中学 1 年生の数学が大きな伸びを示した。ほぼすべての項目で全国の正答率を上回った。

■ 国語は全体として、叙述を基に捉える「読むこと」に苦手さがある。

■ 算数・数学は、基礎的な学習の定着に課題が見られる。

■ 英語について、県全体では「聴くこと」に課題があると分析されていたが、真庭市については「書くこと」にも課題が見られる。

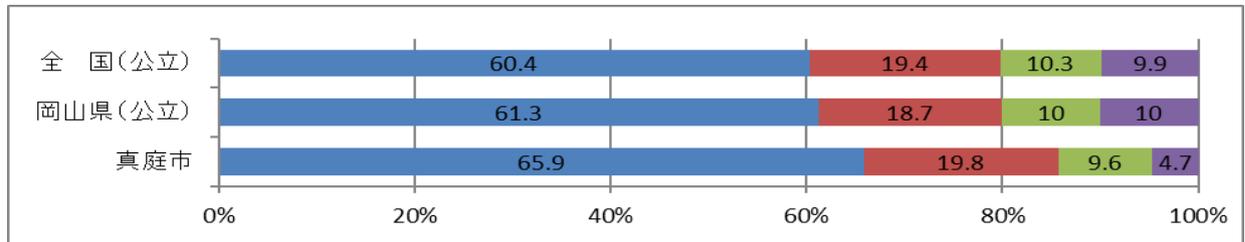
VI質問紙調査結果概要（全国調査）

◆郷育を核としたキャリア教育を通して「未来を切り拓く子」を育む

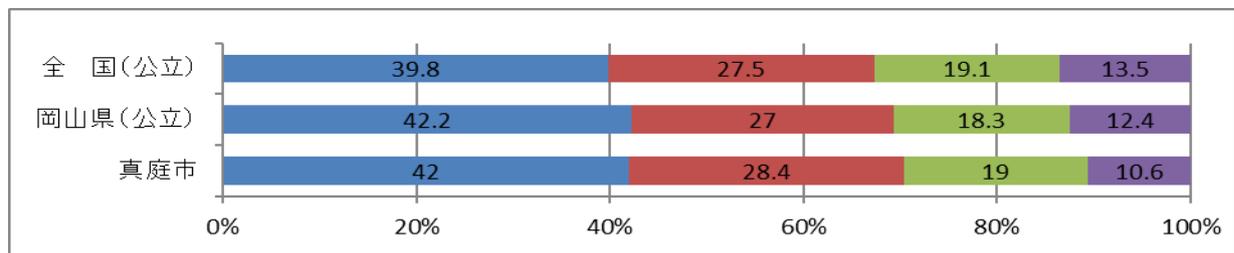
【質問項目】 将来の夢や目標を持っていますか

■あてはまる ■どちらかと言えばあてはまる ■どちらかと言えばあてはまらない ■あてはまらない・その他・無回答

小学校



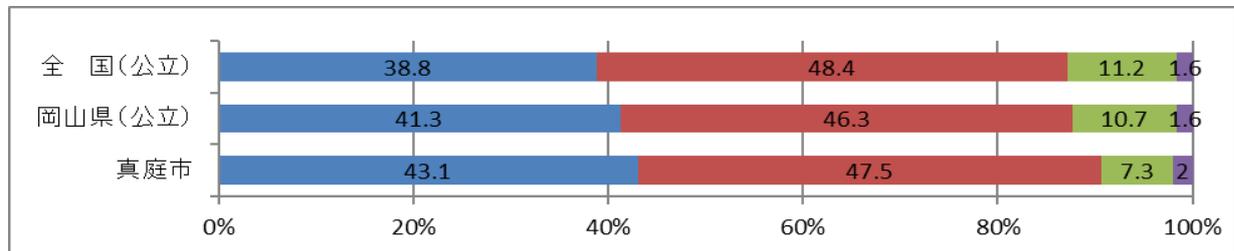
中学校



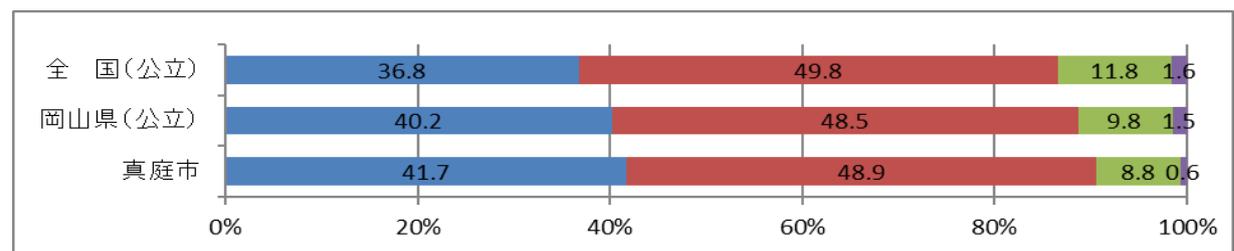
【質問項目】 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか

■あてはまる ■どちらかと言えばあてはまる ■どちらかと言えばあてはまらない ■あてはまらない・その他・無回答

小学校



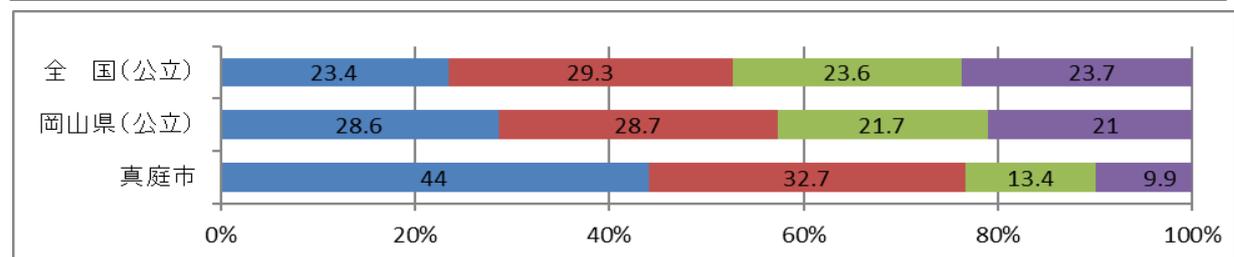
中学校

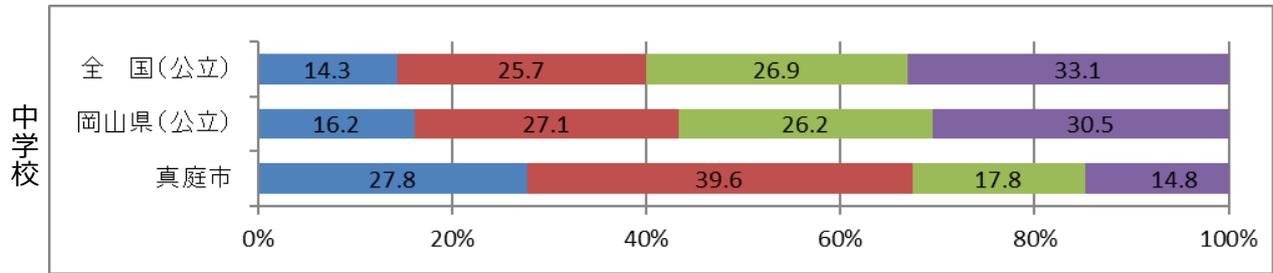


【質問項目】 今住んでいる地域の行事に参加していますか

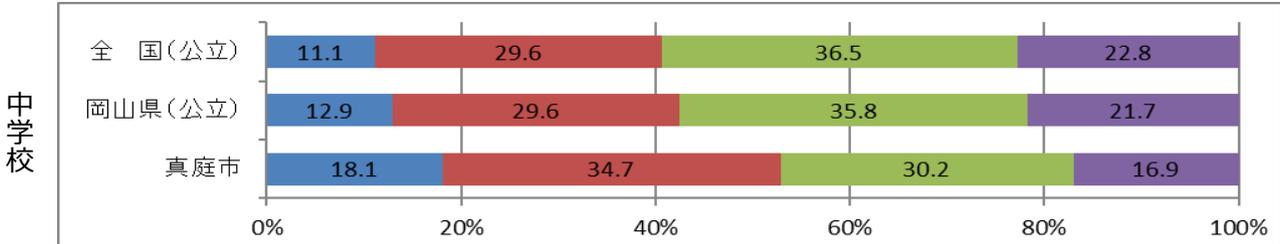
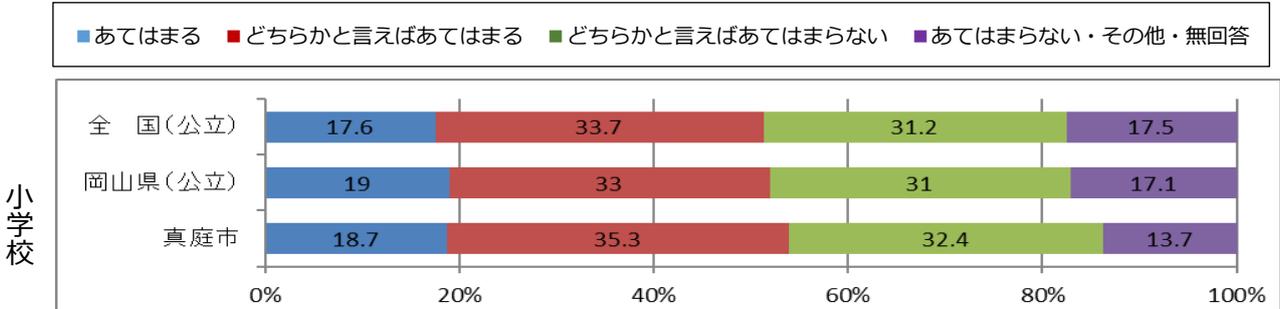
■あてはまる ■どちらかと言えばあてはまる ■どちらかと言えばあてはまらない ■あてはまらない・その他・無回答

小学校

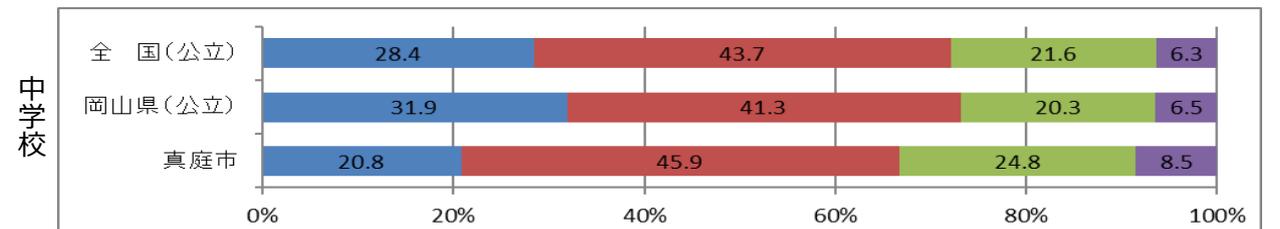
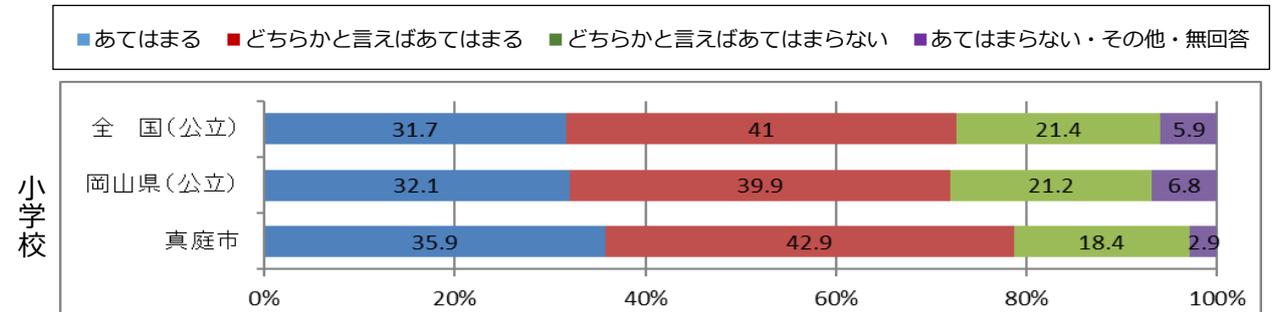




【質問項目】 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか

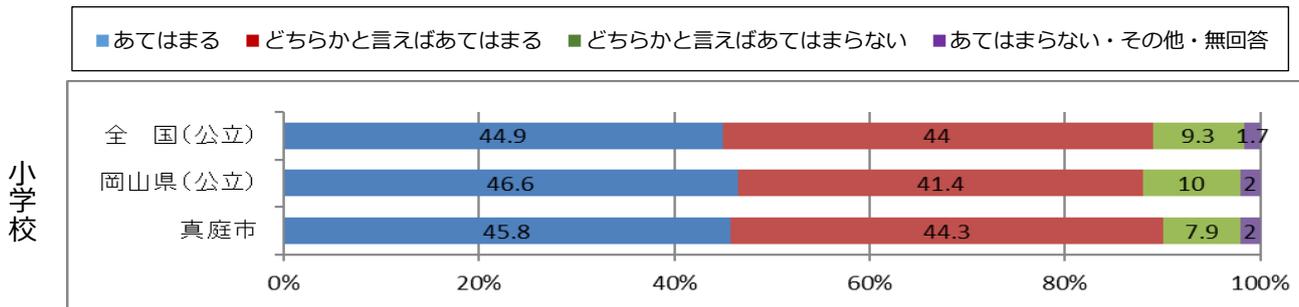


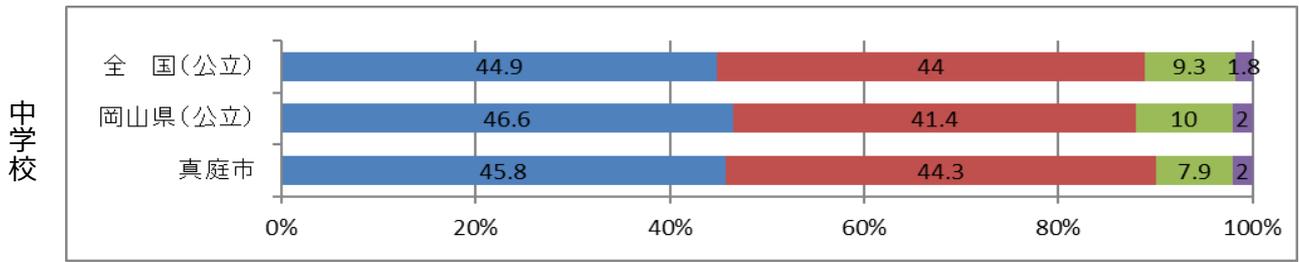
【質問項目】 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



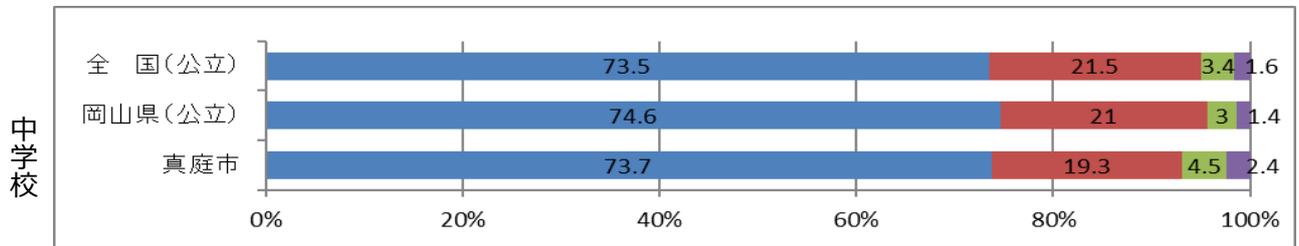
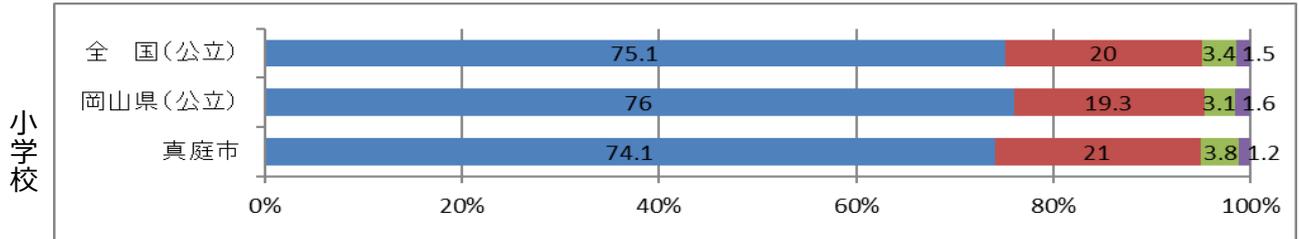
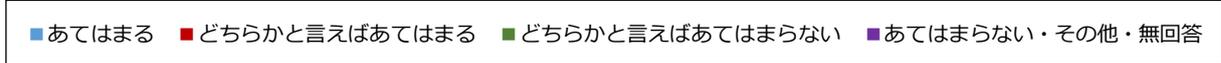
◆個性や能力が輝くインクルーシブ教育により「共生社会の担い手」を育む

【質問項目】 人が困っているときは、進んで助けていますか

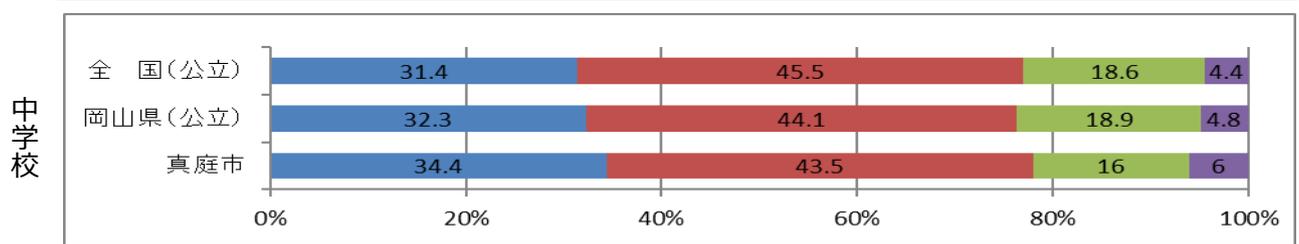
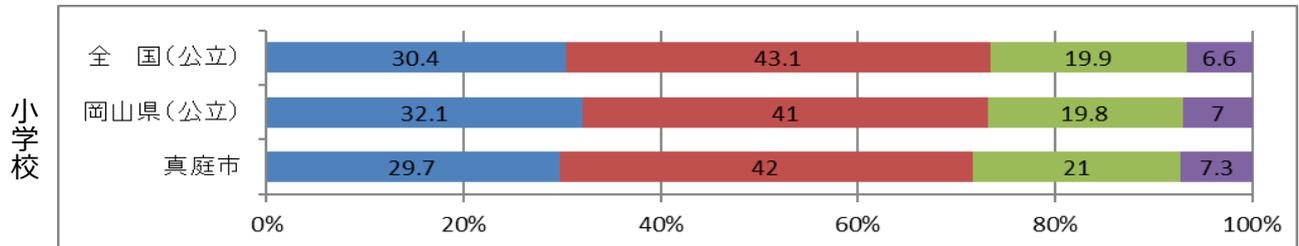
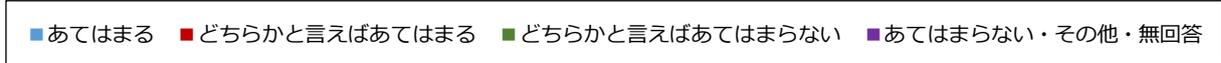




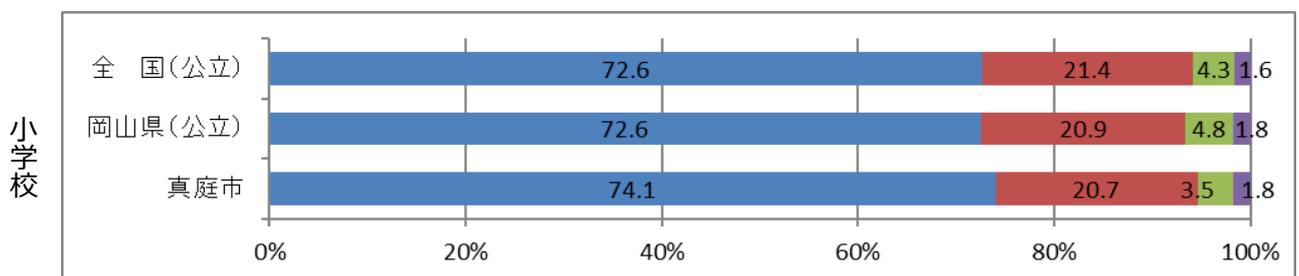
【質問項目】 人の役に立つ人間になりたいと思いますか

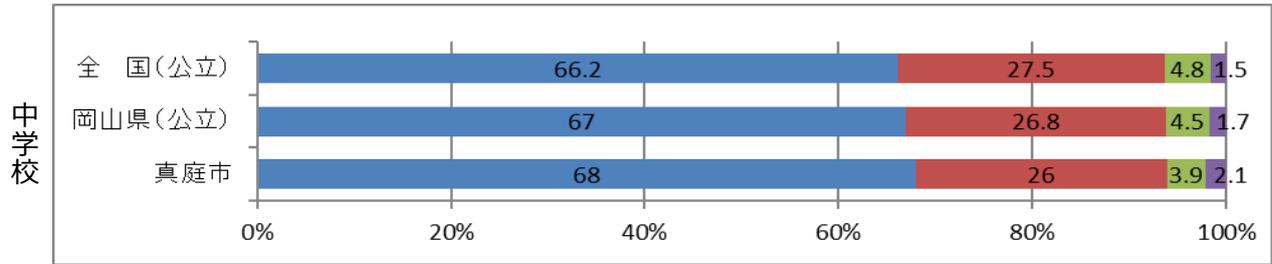


【質問項目】 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



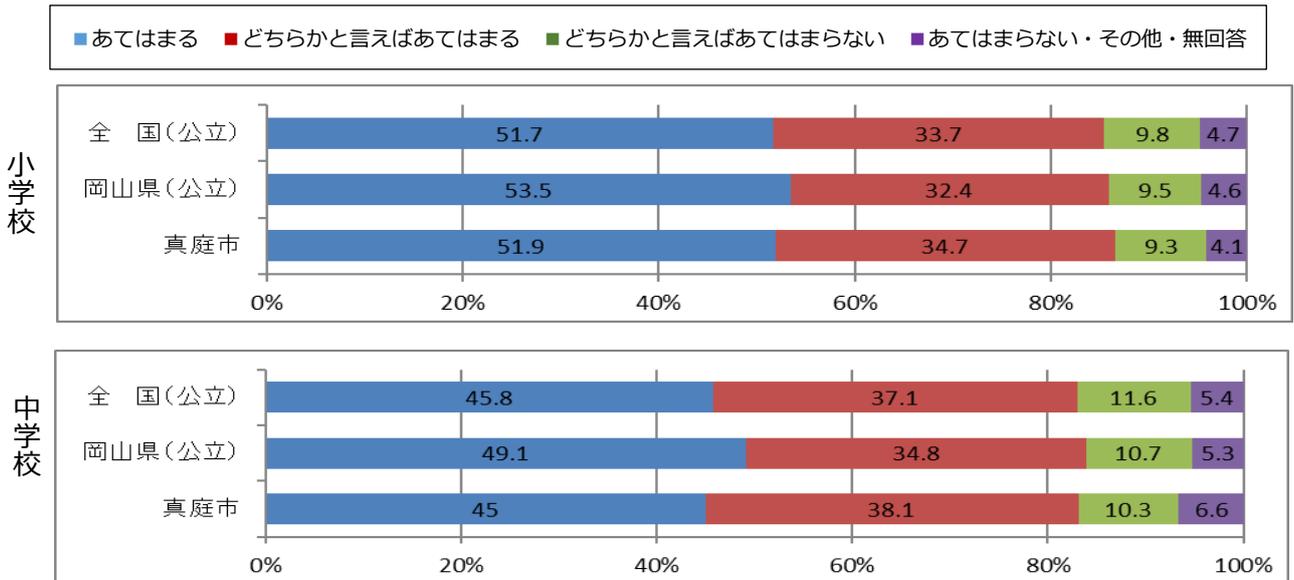
【質問項目】 友達と協力するのは楽しいと思いますか



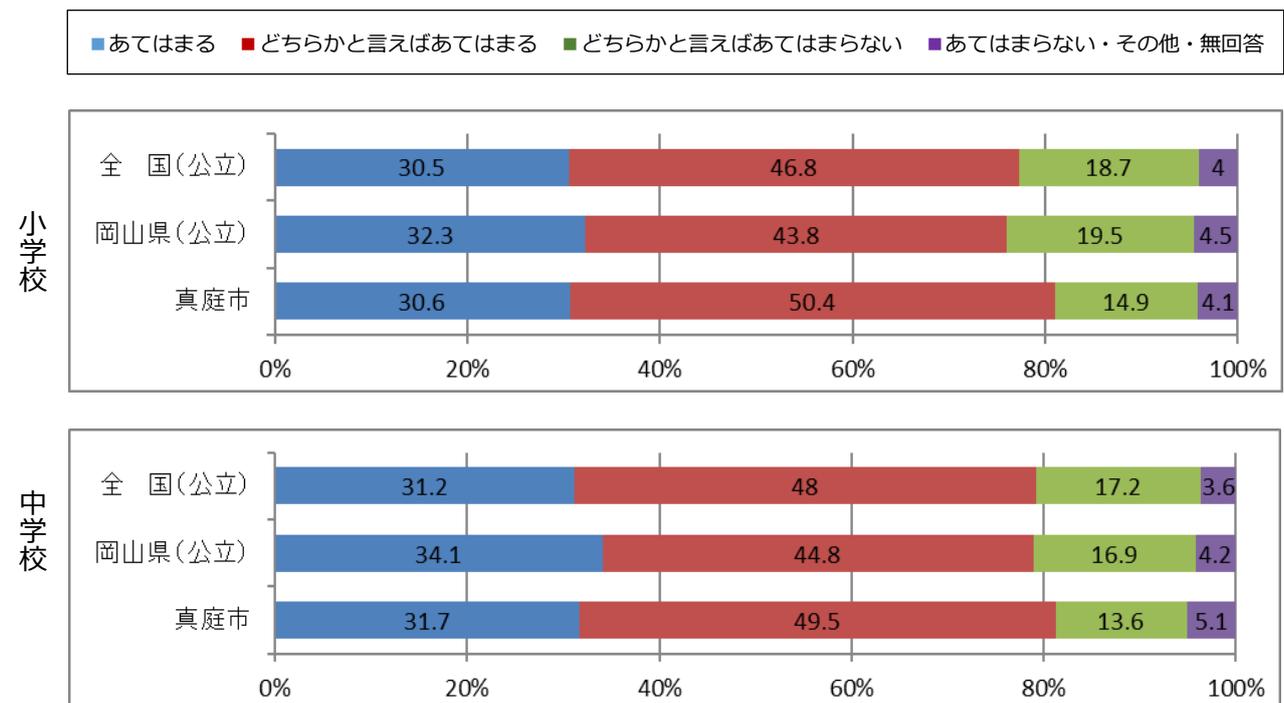


確かな学力を育む学習基盤

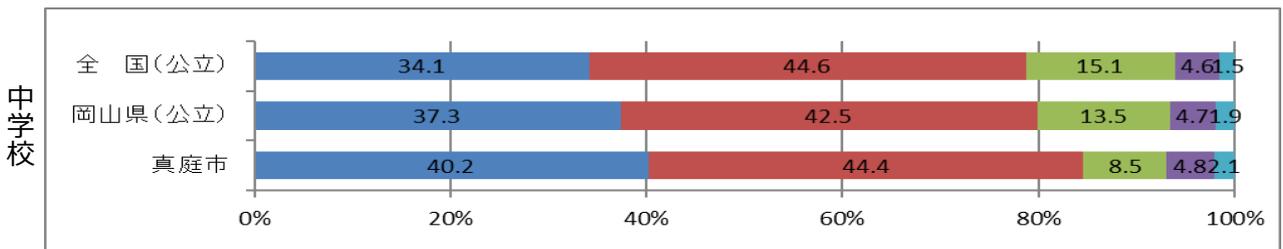
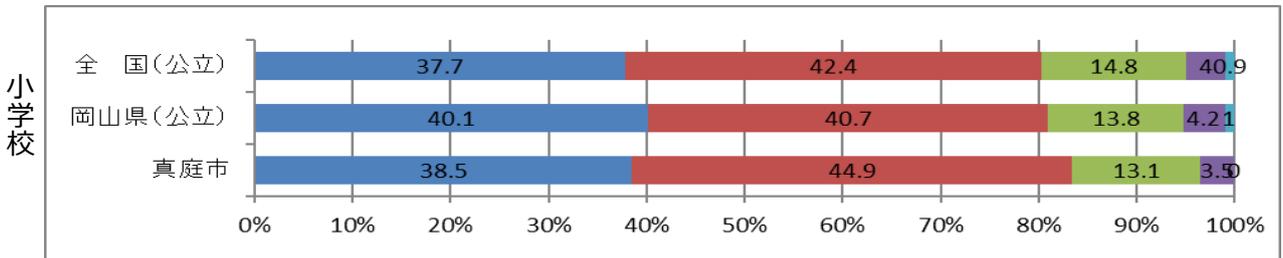
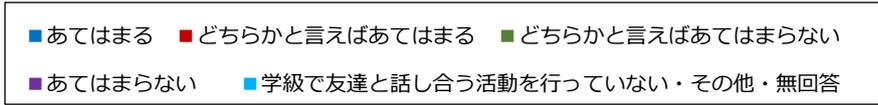
【質問項目】 学校に行くのは楽しいと思いますか



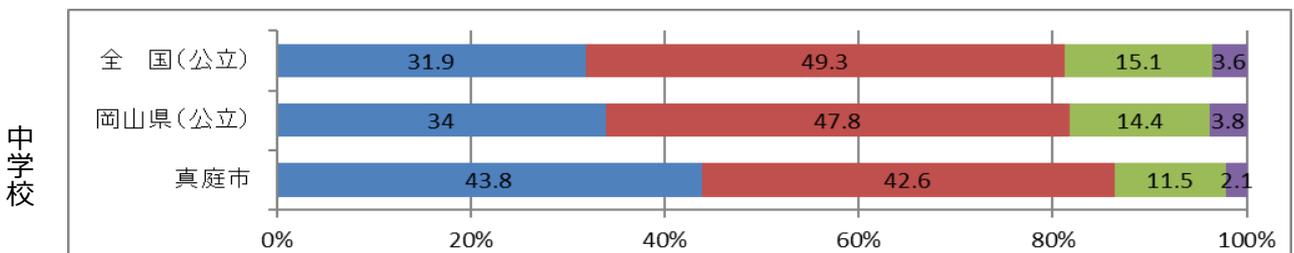
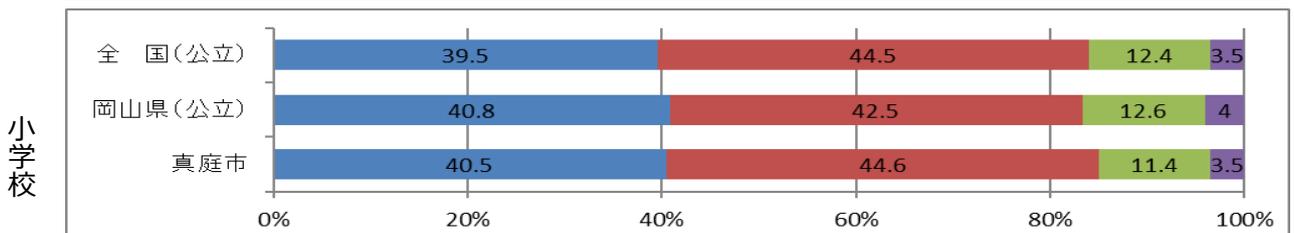
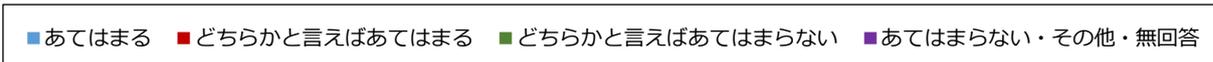
【質問項目】 小学校5年生・中学校1・2年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか



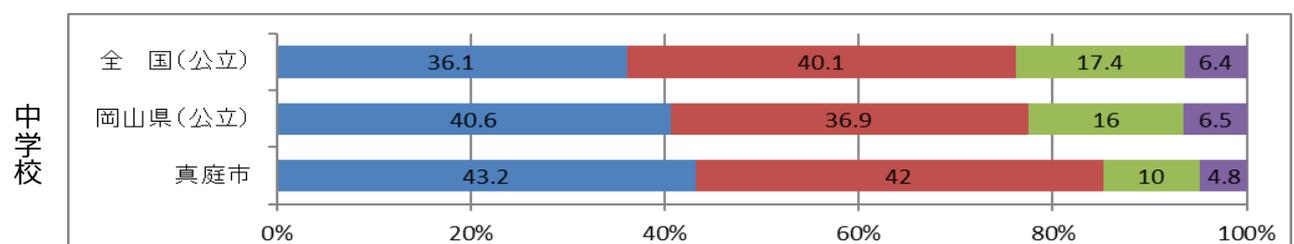
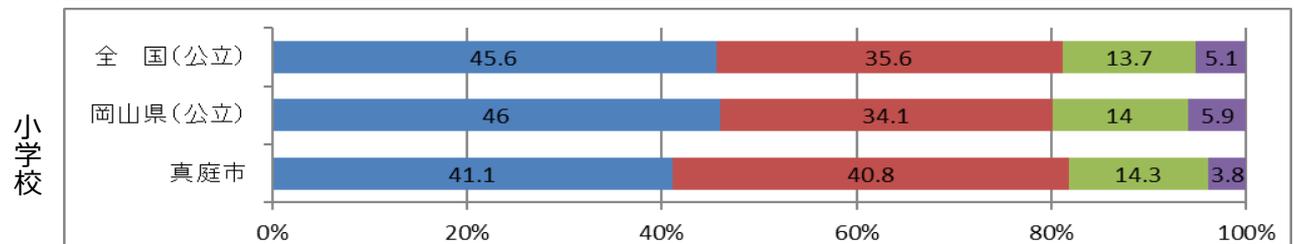
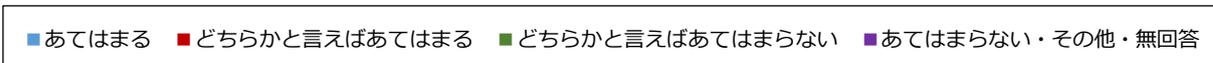
【質問事項】 学級の友達・生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。



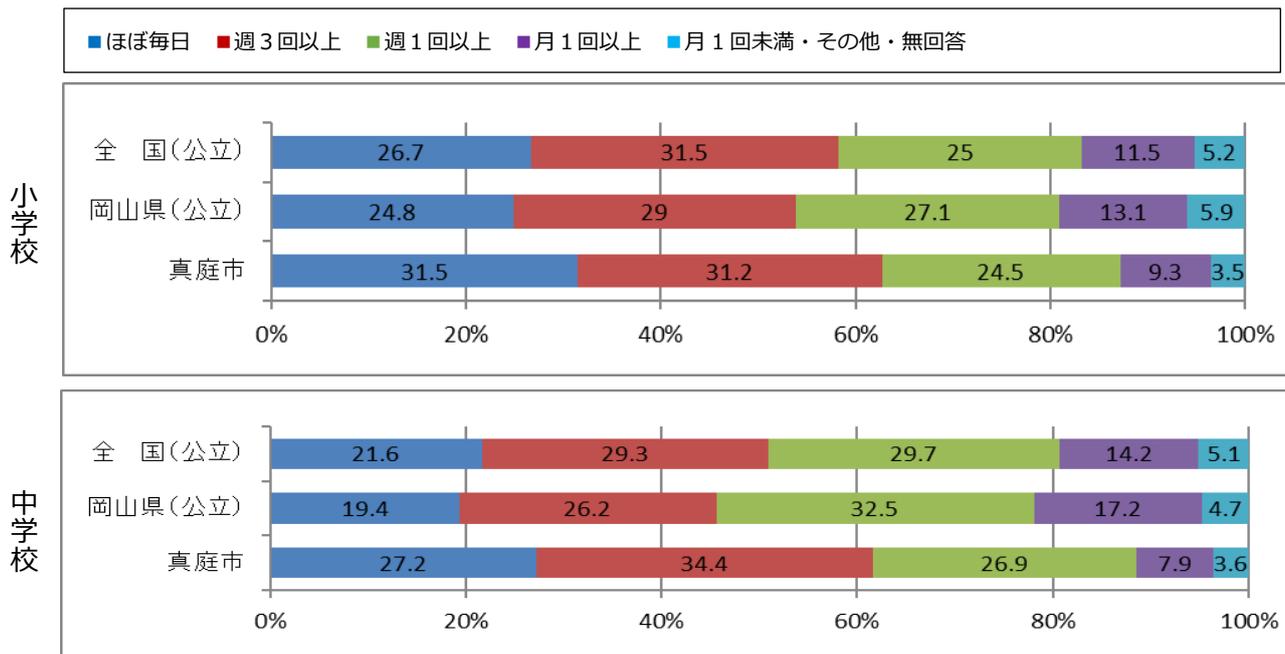
【質問項目】 国語の授業の内容はよく分かりますか



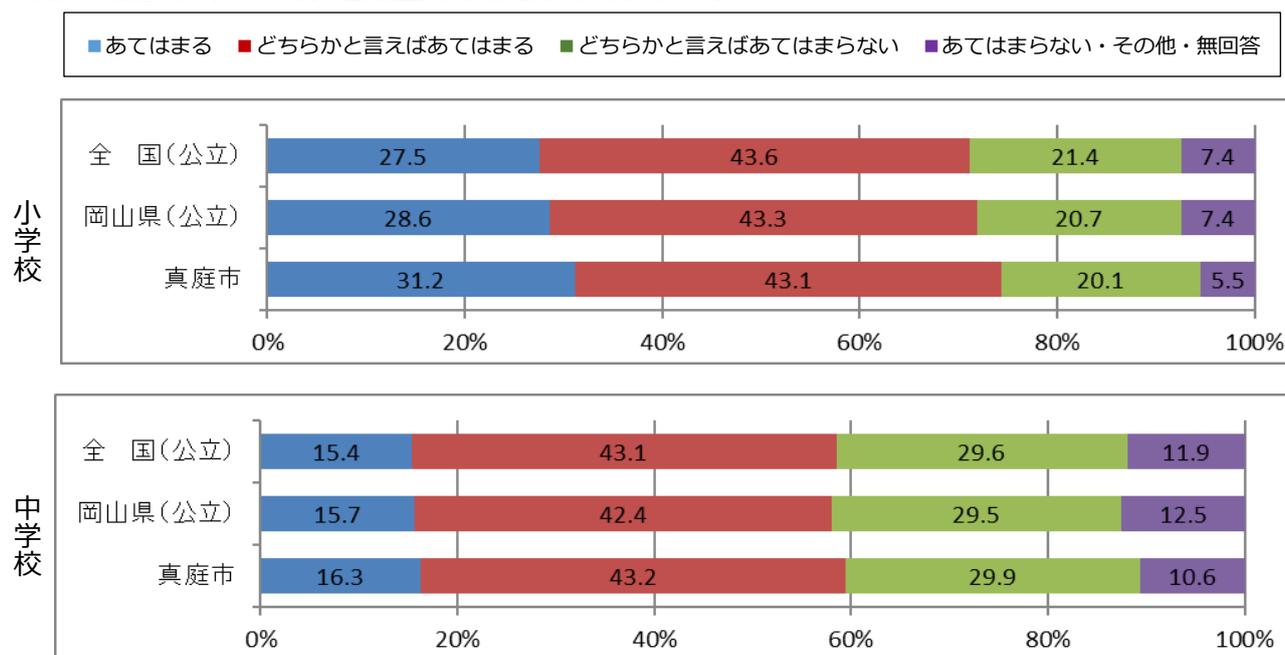
【質問項目】 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか



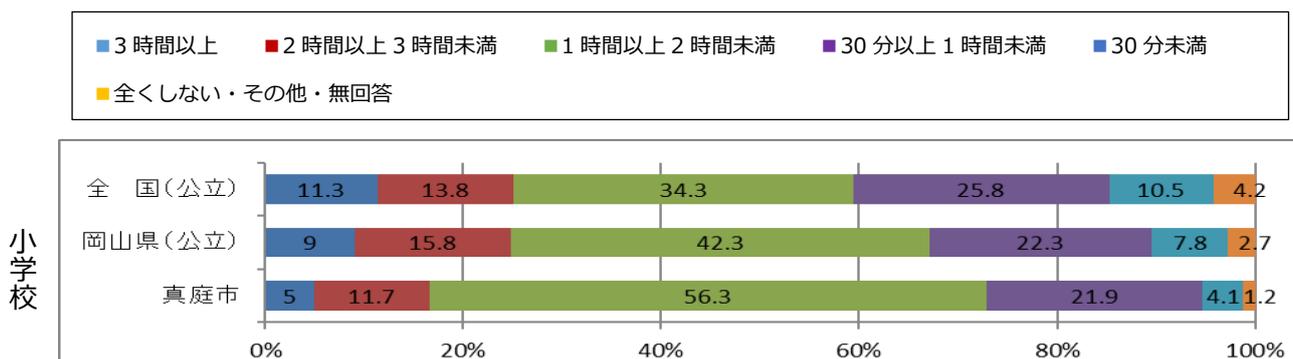
【質問項目】 5年生・中学校1・2年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか

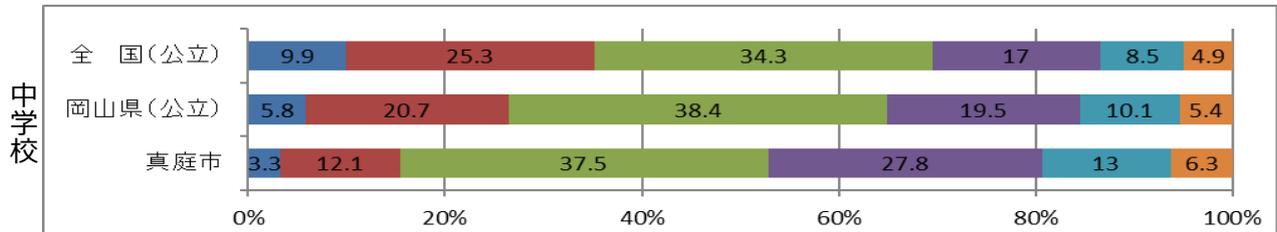


【質問項目】 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか

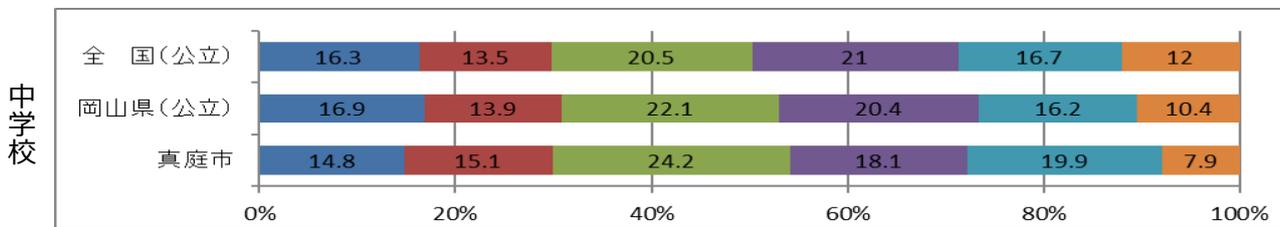
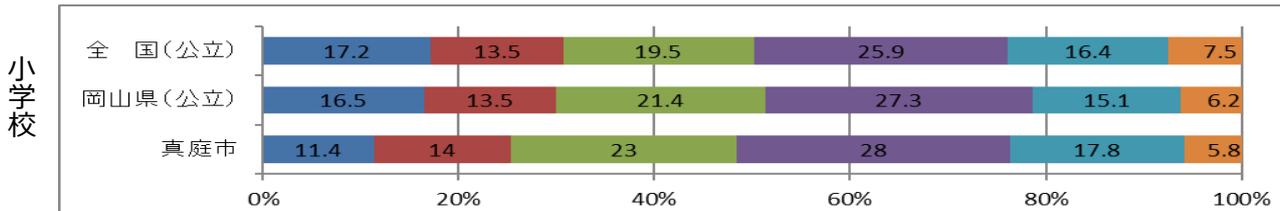
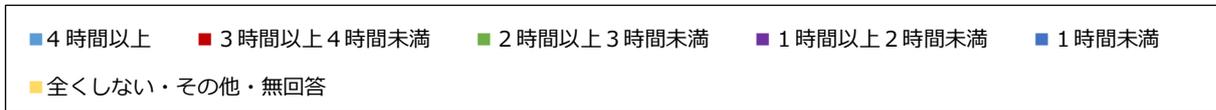


【質問項目】 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）





【質問項目】 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含む）をしますか

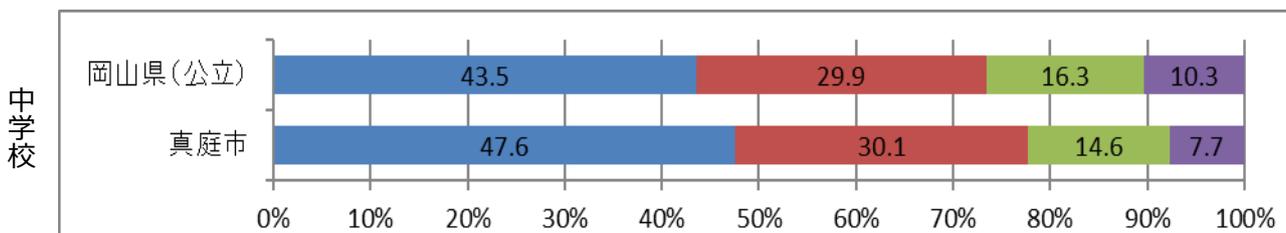
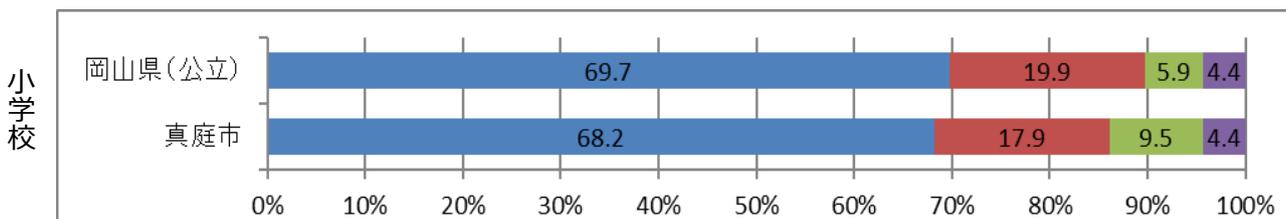
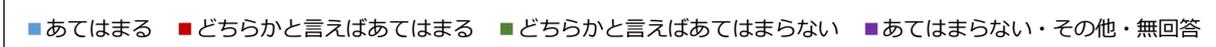


Ⅶ 質問紙調査結果概要（県調査）

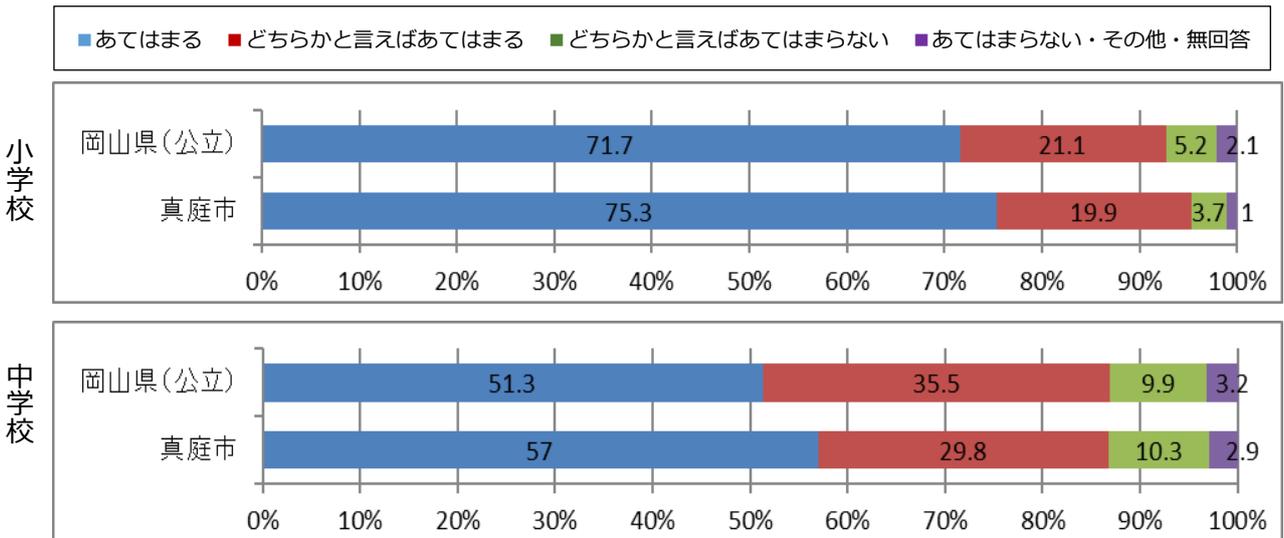
◆郷育を核としたキャリア教育を通して、「未来を切り拓く子」を育む

※以下の質問調査は、小学校5年生、中学校2年生の回答の状況

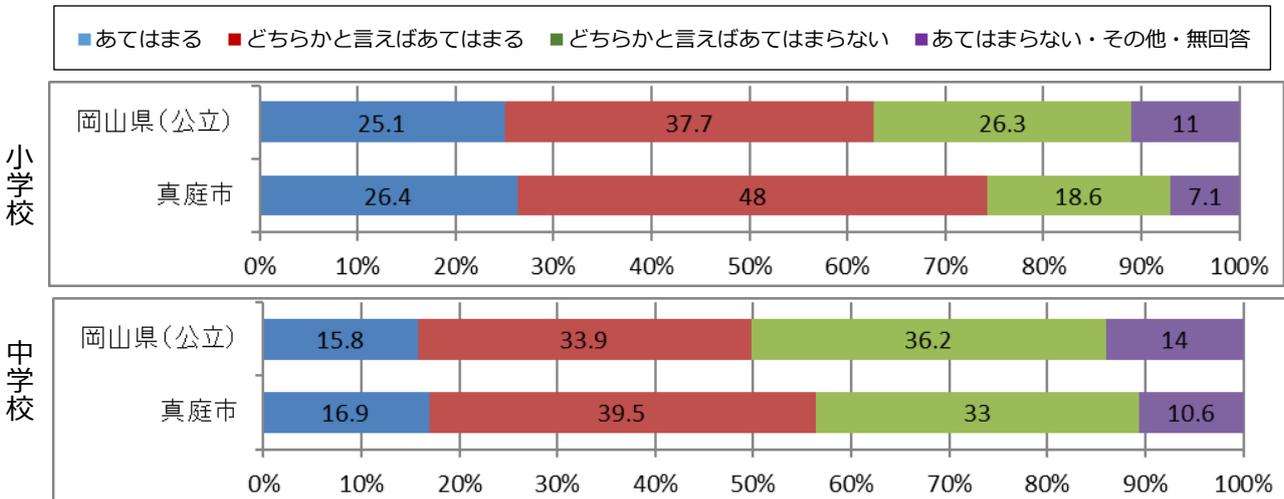
【質問項目】 将来の夢や目標を持っている



【質問項目】自分が住んでいる地域が好きである

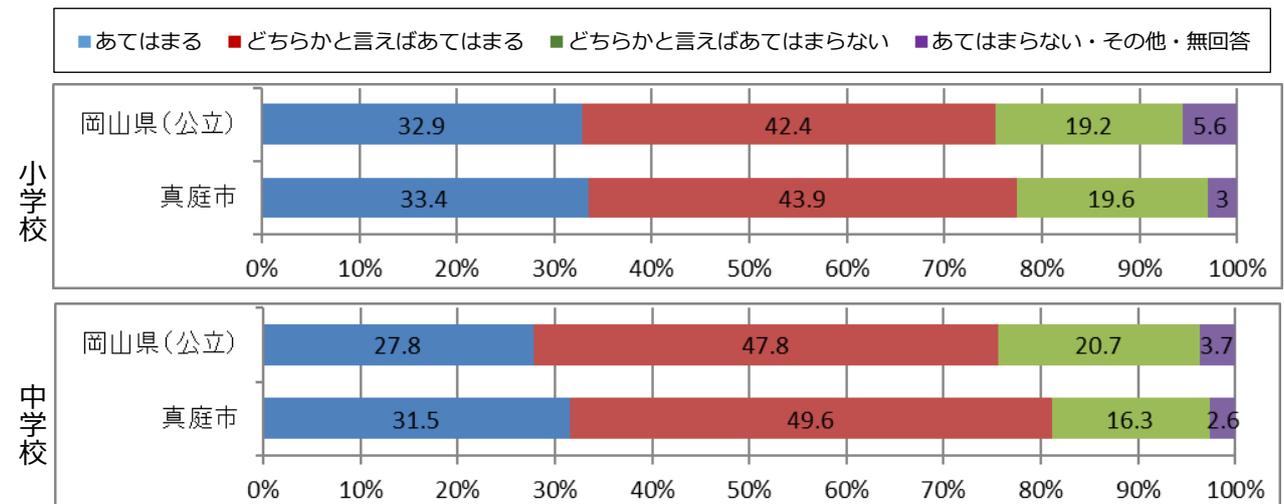


【質問項目】地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある

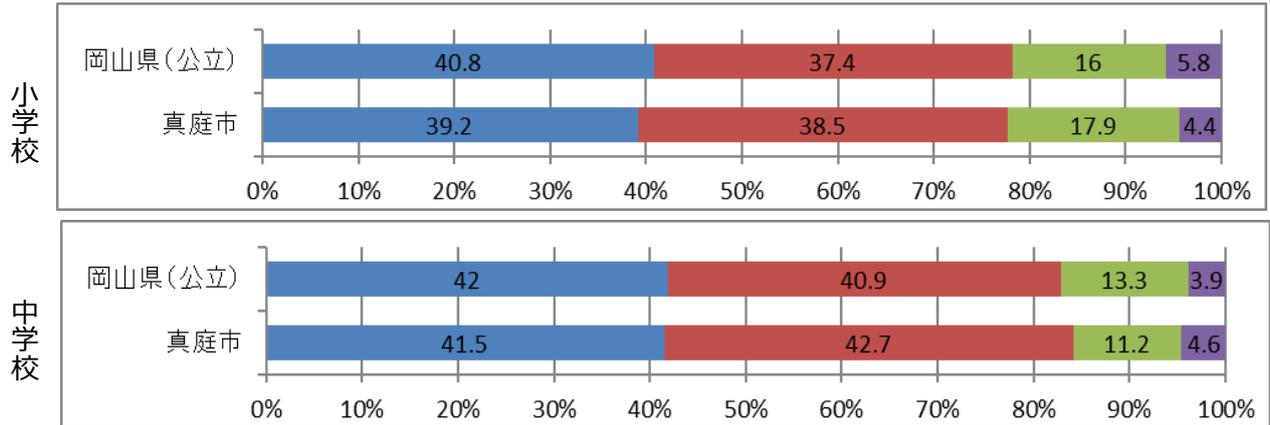


確かな学力を育む学習基盤

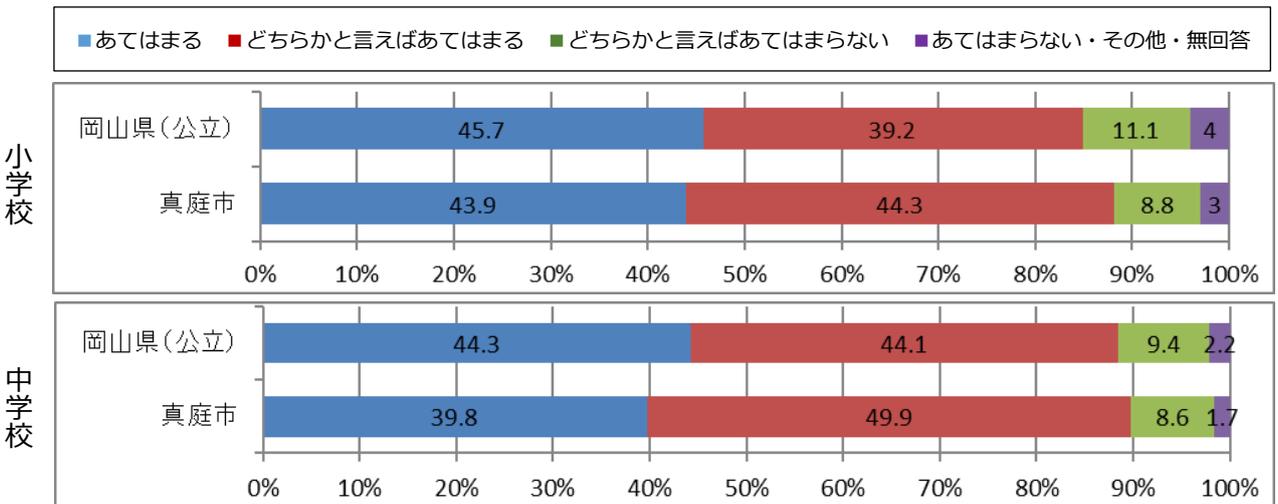
【質問項目】授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う



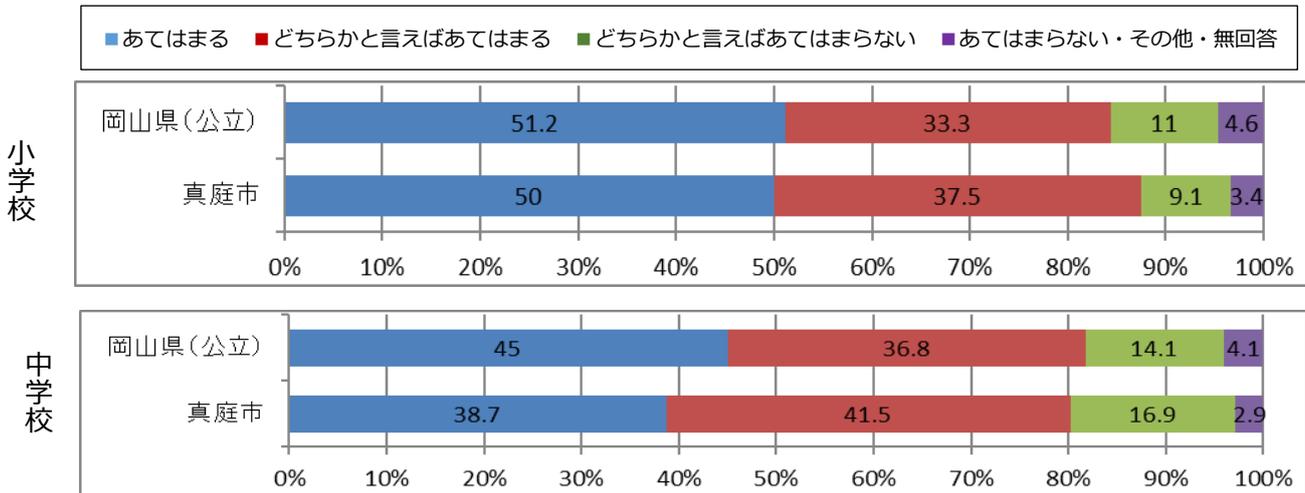
【質問事項】 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていたと思う。



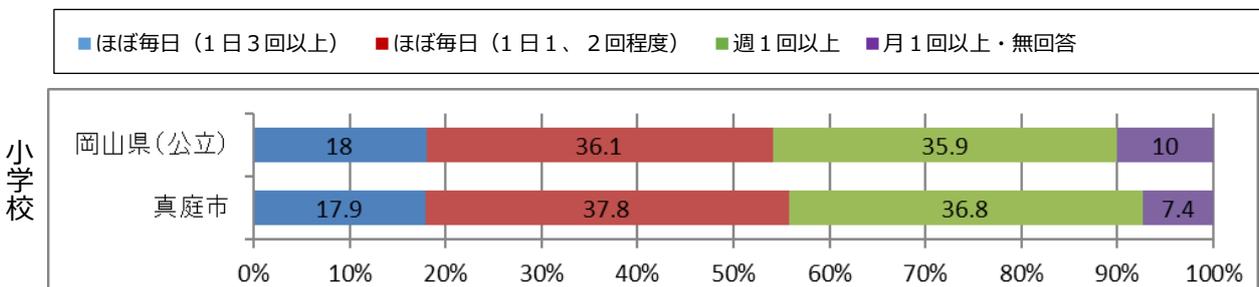
【質問項目】 国語の授業の内容はよく分かる



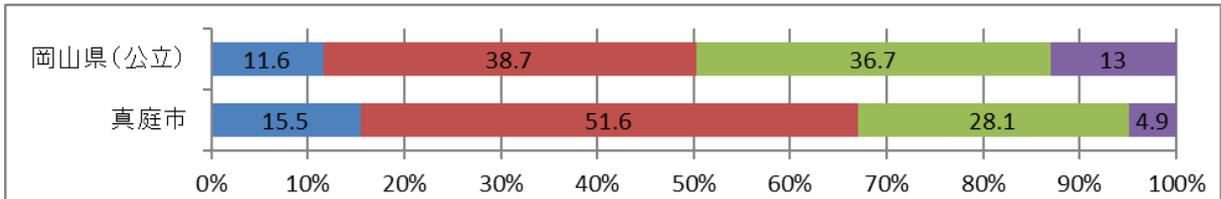
【質問項目】 算数・数学の授業の内容はよく分かる



【質問項目】 授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか



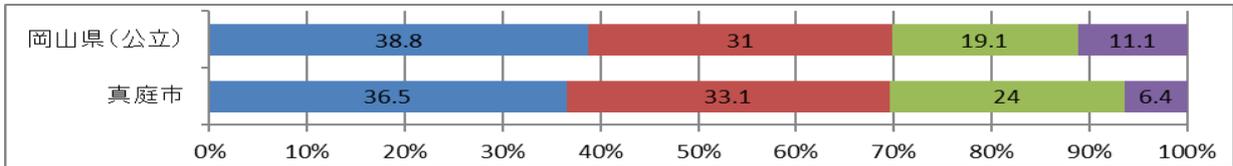
中学校



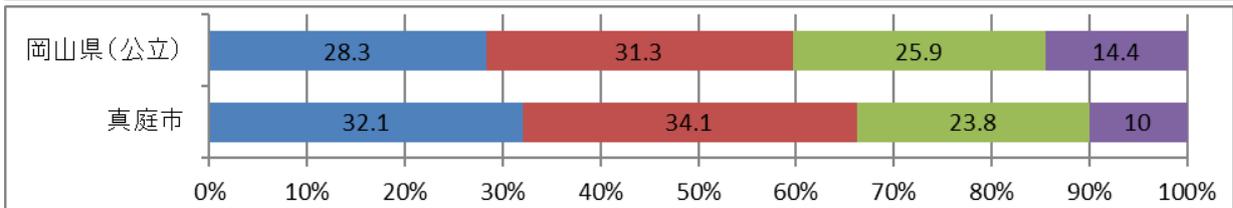
【質問項目】自分で計画を立てて勉強をしていた



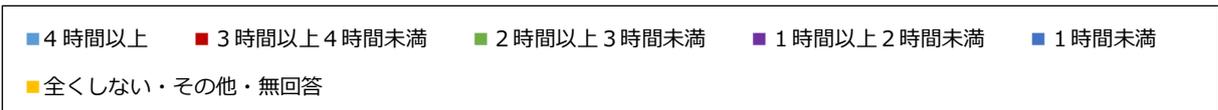
小学校



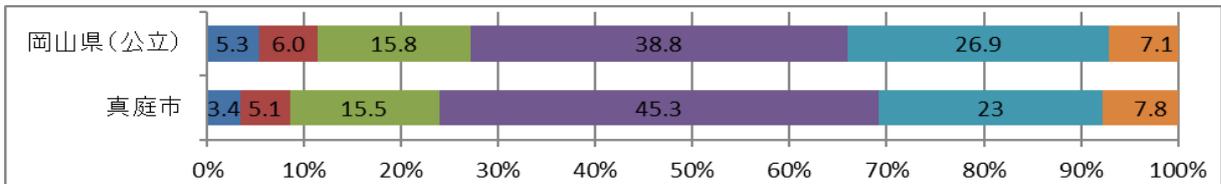
中学校



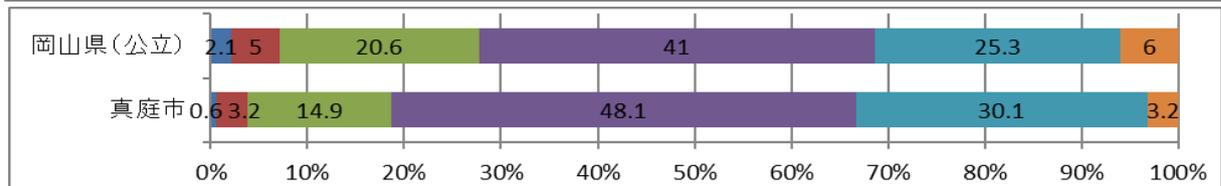
【質問項目】学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていましたか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含まます）



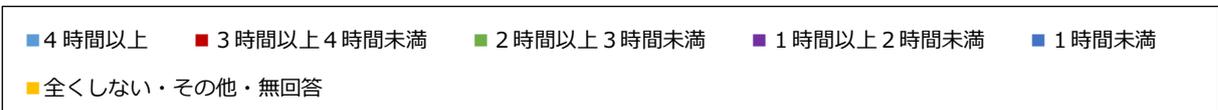
小学校



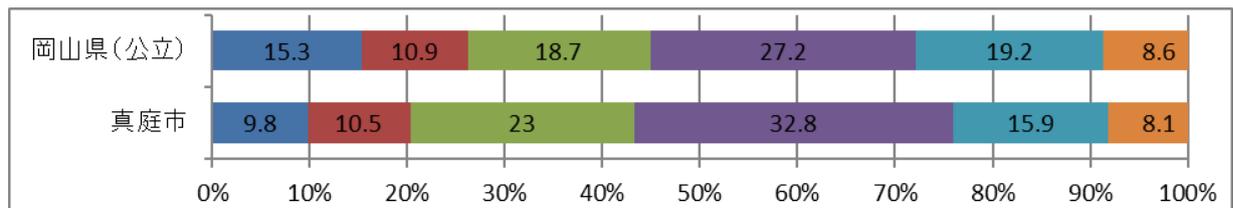
中学校



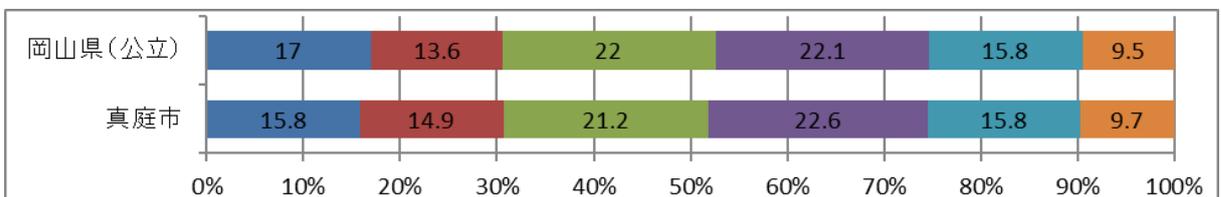
【質問項目】普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームを含みます）をしていましたか



小学校

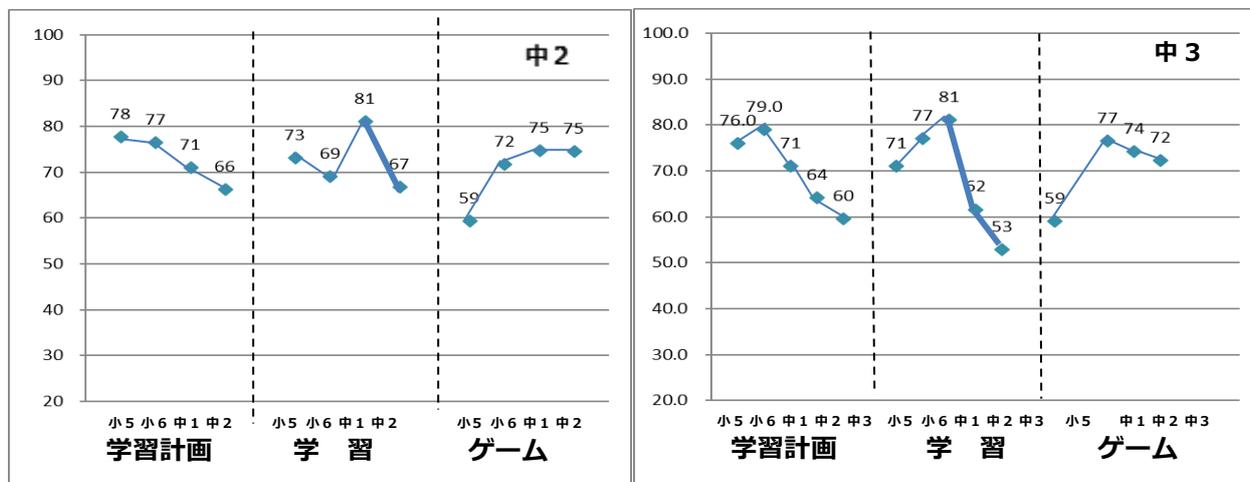


中学校



中2・中3の学習状況調査結果における肯定的回答の割合〔単位：％〕

- 1 【学習計画】自分で計画を立てて勉強をしていた。
- 2 【学 習】学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1時間以上勉強をしていた。
- 3 【ゲ ー ム】普段（月曜日から金曜日）、1日当たり1時間以上、テレビゲームをしていた。



- 学習計画を立てる児童生徒の割合は、学年が上がるごとに減少する傾向にある。
- 学習計画・学習・ゲームについて、中2・中3の経年の表から、小学校での学習習慣の維持が大きな課題と言える。
- 平日に1時間以上学習する割合の大幅減少とゲーム時間にあまり相関関係は見られない。その代わりに増えた時間は「平日1時間以上スマートフォンで通話、SNS、インターネットをする時間」の割合である。

【現中2】 中1(R3)39.5%→中2(R4)55.3% 県平均より0.6%高い。

【現中3】 中2(R3)57.8%→中3(R4)78.6% 県平均より2.7%高い。

IX 今後の改善の方向性

－育成すべき力に向けて－

本調査の結果から、真庭市全体として、「学習の確実な定着」と「学習習慣の定着」に課題があることが見えてきました。もちろん、本調査結果が、学校の教育活動すべての状態を表すものでも、児童生徒が身に付けるべき学力のすべてを反映するものでもありません。また、平均は全体の傾向であり、個々の実態や課題は見えてこないことは言うまでもありません。そのため、各校が自校の成果や課題を明らかにし、指導の改善に取り組むことが重要になります。

◆市全体の改善の方向性◆

1 授業改善（学習の「質」を高める）

児童生徒の質問紙調査から、これまで学校が取り組んできた「岡山型スタンダード」「増補版」に基づいた授業改善には、一定の成果が見られるため、今後は授業の「質」を高めることに取り組みます。

<取組の内容>

- ① 基礎基本の確実な定着を目指し、「めあて」の達成を確認します。
- ② 「自律性」「有能感」「関係性」を大切に児童生徒が主体となる授業づくりを実践し

ます。

③文房具としての1人1台端末の活用を目指し、端末を効果的に活用します。

2 学習習慣の定着（学習の「量」を確保する）

新学習指導要領で掲げられている「すべての子どもを自立した学習者にする」という目標を達成するために、「させられる」家庭学習から「自らする」家庭学習へと意識が変えられるよう取り組み、学習の「量」を確保します。

<取組の内容>

①授業とつながる家庭学習の課題設定に取り組みます。

②学習意欲を喚起できる家庭学習のフィードバックを工夫します。

3 郷育を核としたキャリア教育の推進

真庭市が取り組んでいる「郷育を核としたキャリア教育」の成果として、児童生徒の地域に対する誇りや愛着の醸成と共に、地域や社会への貢献意識が高まっています。今後はさらに地域や社会との連携を強めて、取組の推進をしていきます。

<今後の取組>

①4月に刊行した『SDGsスタートブック』を活用した取組を推進します。

②AR（拡張現実）を郷育の成果を発信するツールとして活用し、学校と地域が連携し協働的に学習を推進していくことができるようにします。

X おわりに

－真庭市の目指す学校教育に向けて－

真庭市が目指す教育の理念の実現と新学習指導要領が示す3本柱、「学びに向かう力、人間性等＝学んだことを人生や社会に生かそうとする意欲」、「知識及び技能＝実際の社会や生活で生きて働く力の土台」、「思考力・判断力・表現力など＝未知の状況にも対応できる力」の育成に向けた取組を推進する中心は学校です。しかし、学校や家庭だけで子どもの育ちを支えていくことはできません。そのため、学校を地域社会の拠点として、すべての人の協力体制のもと、子どもたちを社会全体で育てていきたいと考えています。

市民の皆様のご理解とご協力を改めてお願いします。

